

ふるさとの 古きを温め 新しき光を創る 吉崎っ子

あわら市吉崎小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	2回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学習公開	8回のべ8日

(2) 地域人材の活用（のべ人数）

講師・ゲストティーチャー	26名
授業ボランティア（含：低ボラ）	0名
登下校支援ボランティア	35名
その他（総合学習アドバイザー）	1名

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

地域の歴史・史跡を探り、豊かな文化にふれるとともに、あわら市特産の果樹栽培の体験を通して、ふるさとのよさを知り、ふるさに誇りを持つ児童を育成する。

<地域に関する歴史を探る活動>

①福井震災被災地を訪ねて

昭和23年6月28日、浜坂地区で地震による地滑りが発生した。幅50m、長さ200mにわたって崩れ、6戸が埋まり26名の人命が奪われるという惨状だった。この災害は地元では「山津波」といって今でも語り継がれている。ちょうど福井震災の63年目の平成23年6月28日、その浜坂地区で被災された方々に話を聞く体験学習を行った。お二方のおばあちゃんが20歳前後に体験されたということもあり記憶も鮮明で、細部まで詳しく当時の状況を話してくださった。子ども達は東北地方太平洋沖地震の後ということもあり真剣に聞き入っていた。そして、身近なところでも地震でたくさんの方々が亡くなられたことを知り、その後の防災マップ制作活動につながっていった。



<浜坂区「福井震災」体験を聞く>

②「越前鬼瓦」学習

吉崎地区のお寺の屋根を飾る鬼瓦は、あわら市細呂木で生産された伝統的な越前瓦であることを知り、現在その越前鬼瓦の伝統を守るたった一人の「鬼師」の方にお話を聞く体験活動を行った。工房で作業工程を見学したり、実際にミニ越前瓦を作ったり、鬼師の方に伝統に携わっている思いを聞いたり、子ども達は、鬼師の方の温かな心遣いや、地元の歴史や伝統文化に十分に触れることができ、吉崎地区の歴史の古さをより一層体感することができた。



<越前鬼瓦工房にて>

成果と課題について

- ①今年度の活動は、東北大震災という痛ましい災害の後ということもあり、浜坂地区で被災された方々から体験談を聞いたことは、子ども達のふるさとの思いをより一層強めたのではないかなと思う。また、この活動の後の、地域の防災施設状況や危険個所を調べる「防災マップ」制作活動に意欲的に取り組むことができた。
- ②越前鬼瓦学習を通して、自分たちの郷土の歴史や文化を理解し、郷土への誇りと郷土を大切にしようとする心を養うことができたように思う。今後は、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力をさらに育成していかなければならない。